

専門分野 I 10科目 13単位 330時間

〈基礎看護学〉

人間に対する理解を深め、健康の概念、保健医療福祉における看護の役割について学ぶ。また、看護実践の基礎となる看護技術や問題解決の方法などの知識・技術・態度を習得する。

科目名	看護学概論 Introduction		講師名	野月 千春	
学年	1年	講義時期	前期	単位・時間数	1単位(30)

講義のねらい	人間、健康、保健医療福祉の概念とともに、看護の概念を理解し、現代社会の中での看護の位置づけと役割を学ぶ。		
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の歴史的変遷や理論家による看護のとらえ方を学び、看護の本質について考えることができる 2. 看護の機能と役割を看護理論家・専門団体等による定義より理解できる。 3. 健康の概念と健康をまもる医療保健チームの役割を理解できる。 4. 看護の対象について理解できる。 5. 看護職の状況やキャリア開発について理解できる。 6. 医療、看護をめぐる倫理原則を理解し、倫理的問題の解決について理解できる。 7. 看護の提供のしくみについて理解できる。 		
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護とは <ol style="list-style-type: none"> ①看護の歴史的変遷 ②看護の定義 看護理論家、法律における定義 (F.ナイチンゲール、V.ヘンダーソン、E.ウィーデンバッグ、D.E.オレム、S.Cロイ、J.トラベルビー、H.Eペプロウ 等) ③看護の役割と機能（看護実践に必要な要件） ④看護の継続性と情報共有 2. 看護の対象の理解 <ol style="list-style-type: none"> ①人間とは ②人間を理解するための理論 3. 国民の健康、生活の理解 <ol style="list-style-type: none"> ①健康とは何か ②健康の捉え方と国民の健康状態 4. 看護の提供者 <ol style="list-style-type: none"> ①看護職者とその資格 ②看護職者の就業状況と継続教育 ③看護職の養成制度の課題 5. 看護における倫理 <ol style="list-style-type: none"> ①看護倫理とは ②看護実践における倫理的問題 6. 看護の提供のしくみ <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>【担当講師からのメッセージ】 この科目は、看護学の始まりの科目です。看護とは何か、看護師とは何かについて学びます。また看護の対象である人間に対しての理解を様々な視点から理解していきましょう。 グループディスカッションやグループワークも一部取り入れ、考える時間を大切にしていきたいと考えています。</p> </div>		
評価方法	筆記試験、レポート	試験予定	1年次9月
参考書	専門 I 基礎看護学〔1〕 看護学概論（医学書院）		
その他	一部 グループ討議やグループワークがあります。		

基礎看護学

科目名	基礎看護技術 I (技術概論) Nursing Arts I		講師名	佐野 なつめ	
学年	1 年	講義時期	前期	単位・時間数	1 単位(30)

講義のねらい	看護技術の概念を理解し、看護を实践するうえで基礎となる共通の技術について学ぶ。			
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術の特徴について理解できる。 2. 看護における安全・安楽・自立の意義とその方法を理解できる。 3. 問題解決過程の展開と方法を習得できる。 4. 看護場面におけるコミュニケーションの意義と、技術が実際に活用できるよう、その方法を学ぶ。 5. 心理・社会面が健康に及ぼす影響とその援助方法を理解できる。 			
講義内容	<p>[看護技術概念]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 技術とは 2. 看護技術の目的・種類・活用 <p>[共通基本技術]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間関係を成立し、発展させるための技術 <ol style="list-style-type: none"> 1) コミュニケーションを学ぶ意義 2) 看護に必要なコミュニケーション技術 2. 健康学習を支援し成長を促す技術 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護における教育支援の技術 2) カウンセリング 3. 看護を展開する技術 <ol style="list-style-type: none"> 1) ①アセスメント ②全体像の統合 ③問題の特定 ④計画 ⑤実施 ⑥評価 2) 看護記録 4. 安全かつ快適さを確保する技術 <ol style="list-style-type: none"> 1) 安全の意義と確保 2) ケアの中で発生しやすい事故と対策 3) 安楽の意義 4) 安楽を確保する方法 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p>【担当講師からのメッセージ】 看護技術の基本となるのは『安全』『安楽』『自立』です。みなさんが看護を实践する際にも常にこれらが保たれていることが求められます。すべての看護技術に共通する内容を体験を混じえて学習していきます。</p> </div>			
評価方法	筆記試験	試験予定	1 年次 9 月	
参考書	新体系看護学 基礎看護学② 基礎看護技術 I (メヂカルフレンド社) 看護学生のためのレポート&実習記録の書き方 (メヂカルフレンド社)			
その他	本科目の受講には、看護学概論の合格が必要である。			

基礎看護学

科目名	基礎看護技術Ⅱ Nursing ArtsⅡ		①活動・休息	講師名	福森 茂樹
			②バイタルサイン		
学年	1年	講義時期	前期	単位・時間数	①1単位(30)の内の(20)
					②1単位(30)の内の(10)

講義のねらい	<p>1. 人間にとっての活動・運動の意義を理解し、活動・運動機能が障害された対象への援助について学ぶ。</p> <p>2. 対象のバイタルサインを正確に測定するための知識、技術、態度を習得する。</p> <p>3. 人間にとっての睡眠・休息の意義を理解し、睡眠・休息が障害された対象への援助について学ぶ。</p>				
学習目標 〈活動・休息〉	<p>1. 活動・運動の意義を理解し、活動・運動が障害された対象のニーズを理解することができる。</p> <p>2. 体位の種類と身体への影響、体位変換・移動の目的と方法を理解し、安全・安楽・自立の視点をもって、活動の援助ができる。</p> <p>3. 日常生活動作（食事・排泄）に障害のある対象に対する援助ができる。</p> <p>4. 睡眠・休息の意義と援助方法を理解できる。</p>				
〈バイタルサイン〉	<p>1. バイタルサイン測定の意義とその変動因子を理解し、正確な測定ができる。</p>				
講義内容 〈活動・休息〉	<p>1. 活動・運動の意義と援助方法</p> <p>①活動・運動の基本概念</p> <p>②活動・運動機能低下の要因や影響</p> <p>2. 体位変換、移乗、移送の技術演習</p> <p>①安楽な体位・肢位への援助</p> <p>②ボディメカニクスの活用</p> <p>3. 食事・排泄への援助方法</p> <p>4. 休息の意義と援助方法</p>				
〈バイタルサイン〉	<p>1. バイタルサインの定義</p> <p>①バイタルサインの測定の意義</p> <p>②バイタルサインの正常値と変動因子</p> <p>③バイタルサインの測定方法</p> <p>2. バイタルサイン測定の技術演習</p>				
	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>【担当講師からのメッセージ】〈改〉</p> <p>人間にとって活動・休息はどのような意義があり、私たちの生活にどのような影響を及ぼしているのかを学びます。身体的メカニズムを根拠に、自らの生活と関連付けながら知識を身につけましょう。</p> <p>体位変換、移乗・移送、食事、排泄の援助技術は実際に体を動かしながら学びます。1つ1つの動作には、安全かつ安楽な援助を提供するための根拠が含まれています。様々な場面で活用できる技術ですので、繰り返し練習し習得しましょう。</p> <p>バイタルサイン（生命徴候）とは看護を行う上で、最も基本的な指標となります。正確な知識と技術をもって値を測定できるように学習します。</p> </div>				
評価方法	筆記試験	試験予定	1年次9月		
参考書	<p>新体系看護学11 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ（メヂカルフレンド社）</p> <p>新体系看護学12 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ（メヂカルフレンド社）</p>				
その他	<p>実習室での技術演習があります。</p> <p>本科目の受講には、看護学概論の合格が必要である。</p>				

基礎看護学

科目名	基礎看護技術Ⅲ Nursing ArtsⅢ		①環境	講師名	①岩井 公佑
			②清潔		②飯田 真紀
学年	1年	講義時期	前期	単位・時間数	①1単位(45)の内の(18)
					②1単位(45)の内の(27)

講義のねらい	1. 人間の快適で安全な生活環境を理解し、対象に適した病院、病棟の環境を整えるための知識・技術・態度を習得する。 2. 人間にとっての清潔の意義を理解する。 3. 対象に適した清潔援助を実践するための知識・技術・態度を習得する。				
学習目標 〈環境〉	1. 人間が生活するための適切な環境条件を理解できる。 2. 看護における環境調整の意義と役割、方法を理解できる。 3. 病床環境の調整に関する援助の実践ができる。 1) ベッドメイキングが実施できる 2) 臥床患者のシーツ交換ができる				
〈清潔〉	1. 身体や衣服の清潔の意義を、清潔援助の必要性と関連づけて理解できる。 2. 清潔援助を患者に行ううえで必要な基礎知識を理解できる。 3. 清潔援助を根拠に基づいて安全・安楽に実施できる。 4. 清潔援助を患者に配慮しながら実施できる（プライバシー・羞恥心への配慮、声掛け、思いやり）。				
講義内容 〈環境〉	1. 人間にとっての快適で、安全な環境 ①環境調整の意義 ②環境条件 2. 療養者の環境調整の目的とその方法 3. ベッドメイキング技術演習 ①病床の環境整備 ②オープンベッドの作り方 ③臥床患者のシーツ交換				
〈清潔〉	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【担当講師からのメッセージ】 ベッドメイキングは、患者様の環境を清潔に安全に整える技術です。実技演習が多くありますが空き時間・放課後を活用し、授業時間以外にも練習をしましょう。</p> </div> 1. 身体の清潔 ①身体の清潔 ②身体の清潔の意義 ③衣服の清潔の意義 ④患者に適した衣服 2. 清潔援助 ①清潔援助の対象 ②清潔援助の種類 ③清潔援助の目的 ④清潔援助における看護師の役割 ⑤清潔援助実施時の原則 3. 清潔に関する解剖生理学 ①皮膚の構造と特徴 ②口腔の構造と特徴 4. 清潔（衣生活）援助技術 ①寝衣交換 ②全身清拭 ③陰部洗浄 ④洗髪 ⑤足浴・手浴 ⑤爪切り ⑦入浴介助 ⑧口腔ケア 5. 健康障害のある患者への援助（技術演習） ①全身清拭・寝衣交換 ②洗髪 ③陰部洗浄 ④足浴・手浴、爪切り ⑤口腔ケア				
評価方法	筆記試験	試験予定	1年次9月		
参考書	新体系看護学全書12 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ（メヂカルフレンド社）				
その他	〈環境〉〈清潔〉ともに、実習室での技術演習があります				
	本科目の受講には、看護学概論の合格が必要である。				

基礎看護学

科目名	基礎看護技術Ⅳ（栄養・排泄） Nursing ArtsⅣ		講師名	本田 里香	
学年	1年	講義時期	前期	単位・時間数	1単位(30)

講義のねらい	1. 人間にとっての栄養、排泄の意義を理解する。 2. 対象に適した栄養・排泄の援助をするための知識・技術・態度を習得する。			
学習目標	1. 生命維持に不可欠な栄養、排泄のメカニズムを理解できる。 2. 栄養、排泄の障害を理解できる。 3. 栄養、排泄の援助が実践できるための知識・技術・態度を習得できる。 4. 胃管挿入、浣腸、導尿に必要な技術の根拠を理解し、実施できる。			
講義内容	<p>1. 栄養と食事</p> <p>① 食事の意義</p> <p>② 食欲と食行動</p> <p>③ 消化吸収と排泄の機構</p> <p>④ 栄養摂取基準</p> <p>⑤ 栄養評価</p> <p>2. 栄養障害のある患者の援助</p> <p>① 食事介助</p> <p>② 経管栄養</p> <p>③ 高カロリー輸液</p> <p>3. 栄養障害のある患者への援助の技術演習</p> <p>① 胃管の挿入</p> <p>4. 栄養と食事のアセスメント</p> <p>5. 排泄の基礎知識</p> <p>① 排泄の意義とメカニズム</p> <p>② 排泄障害</p> <p>③ 排泄を促す援助方法</p> <p>6. 排泄のアセスメント</p> <p>7. 排泄障害のある患者への援助（技術演習）</p> <p>① おむつ交換 ② グリセリン浣腸 ③ 導尿 ④ 膀胱内留置カテーテル管理</p>			
	<p>【担当講師からのメッセージ】</p> <p>この講義では、食・排泄の基礎的知識とその障害への援助について学びます。食と排泄は人間にとって基本的な欲求であるのみならず、その行動は人としての尊厳にも影響します。看護では、食・排泄の障害のメカニズムを理解し、根拠に基づき援助すること、患者心理に寄り添う姿勢が必要です。</p> <p>演習で行う看護技術は患者に侵襲を伴う援助であり、苦痛や羞恥心を伴うものもあります。根拠に基づく技術を身につけると同時に患者の心理について考えていきましょう。</p>			
評価方法	筆記試験	試験予定	1年次9月	
参考書	新体系看護学 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ（メジカルフレンド社）			
その他	実習室での技術演習があります			
	本科目の受講には、看護学概論の合格が必要である。			

基礎看護学

科目名	基礎看護技術V Nursing Arts V		①生体機能管理	講師名	岩井 公佑
			②感染予防		
学年	1年	講義時期	後期	単位・時間数	1単位(45)

講義のねらい	看護の基本である感染予防に必要な基本的知識、技術、態度を習得する。診療の場や検査における看護の役割を理解し、対象をふまえた実践のための知識・技術・態度を習得する。				
学習目標 〈感染予防〉 〈生体機能管理〉	<ol style="list-style-type: none"> 1. スタンダードプリコーション、感染経路別予防策の基礎知識が理解できる。 2. 無菌操作の技術が習得できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物療法の意義と与薬方法の種類と実際について理解できる。 2. フィジカルアセスメント、吸入、吸引の基礎知識を理解できる。 3. 口腔・鼻腔内・気管内吸引を実施できる。 4. 生体検査・検体検査の基礎知識を理解できる。 5. 皮下注射・筋肉注射、静脈血採血が安全に実施できる。 				
講義内容 〈感染予防〉 〈生体機能管理〉	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染の成立と感染予防における看護師の責務と役割 2. 感染予防策の実際（スタンダードプリコーションと感染経路別予防策） 3. 感染源対策としての洗浄、消毒、滅菌 4. 感染予防の技術演習 <ol style="list-style-type: none"> ①手洗い、滅菌手袋の着脱、ガウンテクニック ②無菌操作（綿球を用いた消毒、ガーゼ交換） 1. フィジカルアセスメントの定義と要素（問診・視診・触診・打診・聴診） 2. フィジカルアセスメントの技術演習 <ol style="list-style-type: none"> ①呼吸音・心音・腸蠕動音の聴診 ②胸部・腹部の打診、腹部の触診 3. 吸入療法（噴霧吸入、酸素吸入）の基礎知識 4. 吸引（口腔・鼻腔内吸引、気管内吸引、胸腔内吸引）の基礎知識 5. 吸引の技術演習 <ol style="list-style-type: none"> ①モデル人形を用いた口腔・鼻腔内吸引、気管内吸引 6. 予薬に関する基礎知識 <ol style="list-style-type: none"> ①予薬の目的と、職種間（医師、薬剤師、看護師）の役割 ②薬物の保管と管理 ③予防方法の種類と特徴（経口薬、口腔内薬、外用薬、直腸内薬、点眼薬） 7. 注射法に関する基礎知識 <ol style="list-style-type: none"> ①注射器具の種類と構造 ②皮内・皮下・筋肉内注射の目的と適応、方法の実際 ③静脈内注射、輸血療法の目的と適応、方法の実際 8. 注射器法の技術演習 <ol style="list-style-type: none"> ①注射法の準備（アンプルカット、アンプル・バイアルからの薬液の吸い上げ） ②皮下注射、筋肉内注射 9. 生体検査・検体検査の基礎知識 10. 静脈血採血の技術演習 <ol style="list-style-type: none"> ①注射器法、真空採血法 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【担当講師からのメッセージ】 看護師は様々な感染症に接する機会が多いため、感染を拡大させないためにも正しい知識と技術を身につけることが大切です。感染予防では、全ての看護技術に共通して重要な清潔と不潔の概念をしっかりと学んでいきます。 生体機能管理の演習で行う看護技術は、侵襲を伴う援助であるため臨地実習では実施できません。学内演習で正確な知識と技術を身につけるとともに、患者役を体験することによって心理面への配慮も考えられるようになります。</p> </div>				
評価方法	筆記試験	試験予定	1年次2月		
参考書	①②新体系看護学11 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ（メヂカルフレンド社）				
	①②新体系看護学12 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ（メヂカルフレンド社）				
	①フィジカルアセスメントガイドブック（医学書院）				
その他	看護実習室で技術演習があります。				
	本科目の受講には、看護学概論の合格が必要である。				

基礎看護学

科目名	基礎看護技術Ⅵ Nursing ArtsⅥ		①手術室看護	講師名	①工藤 博子
			②集中治療		②伊藤 朱実
			③救急看護		③川崎 寛子
学年	1年	講義時期	後期	単位・時間数	①1単位(30)の内の(8)
					②1単位(30)の内の(12)
					③1単位(30)の内の(10)

講義のねらい	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命の危機状況および周手術期にある対象と家族に対し、看護を提供するために必要な基礎的知識と技術、態度を習得する。 2. 救急時における看護師の役割と看護を理解し、実践する力を養う。 		
学習目標 〈手術室看護〉	<ol style="list-style-type: none"> 1. 手術室看護師の役割が理解できる。 2. 手術時の基本体位と必要な看護が理解できる。 3. 手術室見学：ガウンテクニック、手洗いを経験できる。 		
〈集中治療〉	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命の危機状況にある対象の治療の場と看護の役割が理解できる。 2. 生命の危機状況にある対象の身体的反応及び看護の要点が理解できる。 3. 危機的状況にある患者と家族へ精神的支援が考えられる。 4. ME機器の使用目的と安全管理について理解できる。 		
〈救急看護〉	<ol style="list-style-type: none"> 1. 救急看護について理解できる。 2. 救急時および心肺停止状態の患者のアセスメント、救急処置について理解できる。 3. 救急時の応急処置・心肺蘇生法の技術が習得できる。 		
講義内容 〈手術室看護〉	<ol style="list-style-type: none"> 1. 手術室看護とは 2. 手術室看護師の役割（間接介助看護師・直接介助看護師） 3. 手術時の基本体位 4. 手術室見学（手洗い、ガウンテクニック演習） <p>*本授業はJCHO東京新宿メディカルセンターの手術看護認定看護師（認定看護師についてはP.49参照）である工藤先生からの講義となります。</p>		
〈集中治療〉	<ol style="list-style-type: none"> 1. ICUの定義・ICUの種類・看護の特徴 2. 呼吸・循環管理（体液管理）が必要な患者の看護の要点 3. ICU患者への精神的支援、家族への援助 4. ICU見学 5. 呼吸肺理学療法の演習 6. ME機器の特徴と安全 <ol style="list-style-type: none"> ①心電図（12誘導、モニター） ②自動輸液ポンプ・微量注入器 ③人工呼吸器 		
〈救急看護〉	<ol style="list-style-type: none"> 1. 救急看護とは 2. 救急看護における看護師の役割 3. 救急看護の対象の特徴 4. トリアージと緊急度 5. 救急時のアセスメント（重症度の評価） 6. 救急処置の実際と看護 <ol style="list-style-type: none"> ①心肺蘇生法 ②救急時の援助技術（応急処置） 		
評価方法	筆記試験	試験予定	2年次5月
参考書	①カラービジュアルでみてわかる！はじめての手術看護（メディカ出版）		
	①②別巻 臨床外科看護総論（医学書院）		
	③別巻 救急看護学（医学書院）		
その他	実際に手術室や集中治療室へ見学に行き、学ぶ時間があります。手術室見学の際、白い靴下が必要です。		
	本科目の受講には、看護学概論の合格が必要である。		

基礎看護学

科目名	基礎看護技術Ⅶ(基礎看護技術統合演習) Nuesing ArtsⅦ			講師名	教務主任 専任教員
学年	1年	講義時期	後期	単位・時間数	1単位(30)

学習のねらい	学習した知識と技術を統合し、対象にあった日常生活援助が実践できる。				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 設定した事例の援助の必要性を考えて、日常生活援助の計画ができる。 2. 立案した計画にそって日常生活の援助技術を実践することができる。 3. 基礎看護技術統合演習により、行った看護活動の評価ができる。 4. 看護者としての姿勢や態度を考えることができる。 				
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 演習の進め方について (オリエンテーション) 2. 紙上事例をもとに、患者の状態や症状にあわせ必要な援助を考える。 小グループで、グループワークを行う 3. 統合演習計画をグループで立てる 4. 統合演習 (技術演習) <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p>【受講にあたって】 基礎看護学実習2では病院で療養している患者さんへ日常生活援助を実施します。基礎看護技術Ⅱ～Ⅴで学んだ日常生活援助を模擬患者さんの生活行動や個別性に着目して提供します。また、グループワークを通して、援助の必要性、実施、評価を論理的に考えられるようになります。 技術演習は1人で行いますので、練習を積んだ上で授業へ臨んでください。</p> </div>				
評価方法	実技試験と平常点	試験予定	1年次10月		
参考書	新体系看護学 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ (メヂカルフレンド社) 新体系看護学 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ (メヂカルフレンド社) 看護学生のためのレポート&実習記録の書き方 (メヂカルフレンド社)				
その他	学習してきた看護技術を事例に合った方法で演習します 本科目の受講には、看護学概論の合格が必要である。				

基礎看護学

科目名	看護研究 I (基礎) Nursing Research I			講師名	飯田 真紀
学年	2年	講義時期	後期	単位・時間数	1単位(15)

学習のねらい	看護研究の意義と必要性を理解し、看護研究を行うために必要な基礎的知識を学ぶ。				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師にとっての研究の意義、必要性を理解できる。 2. 看護研究の基本的な考え方、方法を理解できる。 3. 事例研究（ケーススタディ）の研究方法を理解できる。 4. 研究テーマにそった文献検索ができる。 				
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究とは 2. 研究における倫理的配慮 3. 研究デザイン <ol style="list-style-type: none"> ①実験研究 ②調査研究 ③事例研究 4. 文献検索の方法 5. 文献検索の実際（演習） <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p>【担当講師からのメッセージ】 看護研究とは何か、看護研究の基礎的知識を学びます。 看護研究と聞くと難しく感じるかもしれませんが、自分が患者に実施した援助を振り返る貴重な機会となります。看護学生の時だけでなく、看護師になってからも看護研究を行いますので、ぜひ身近なこととして学んでいきましょう。</p> </div>				
評価方法	グループワークおよび筆記試験	試験予定	2年次12月		
参考書	別巻14 看護管理／看護研究／看護制度（メヂカルフレンド社） 看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方（照林社）				
その他					

基礎看護学

科目名	看護研究Ⅱ（実践）			講師名	教務主任・専任教員
学年	3年	講義時期	通年	単位・時間数	1単位(45)

学習のねらい	事例研究を通して文献の活用方法を学び、論理的思考を高め、看護研究の基礎的知識・技術・態度を養う。				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事例研究論文の分析を通して研究の実際を学び、事例研究の基礎的知識を身につけることができる。 2. 実習の事例からテーマを決定し、看護研究論文としてまとめ発表することができる。 				
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事例研究論文の分析基準の作成 2. 事例研究論文を選択し、分析基準に沿って分析する。 3. Ⅲ（2）期～Ⅳ期実習で受け持った事例をもとにテーマを選択し、事例研究論文を作成する。 4. 事例研究発表会、総括 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>【受講にあたって】 Ⅲ（2）実習、Ⅳ期実習のなかで、自分が実践した看護を通して興味や疑問をもったことをテーマとして、文献を活用しながら深く追求していきます。それを論文としてまとめ、9月に全員が発表します。 発表会は実習病院の指導者や1,2年生も参加します。自分の考えをまとめて発表することはとても大変ですが、論文作成を通し自分の看護観が深まります。また、発表後は達成感が得られ、自信にもつながります。</p> </div>				
評価方法	論文および平常点	提出期日	最終提出	3年次10月	
参考書	なし				
その他	各自で主体的に進めていく必要があります。適宜中間提出を求められることがあります。				